



フードバンク活動でこども食堂等への臨時の食料支援に取り組みました

米価を始め物価高騰が続く中、福井県フードバンク連絡会（会長：檜原弘樹、事務局：福井県民生協、福井県生協連合会としても加盟）では、年3回定例のフードバンク活動に加えて、2025年10～12月に国（こども家庭庁）の「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」の助成金と北陸労働金庫の「ろうきん子どもの明日を応援プロジェクト」寄付金を活用して、福井県内のこども食堂やひとり親家庭支援団体への臨時の食料支援活動に取り組みました。また12月9日にはフードバンク連絡会企業とこども食堂との交流会を開催しました。

支援時期	支援品	支援点数	支援団体数	人数
10月	福井県産コシヒカリ5kg	240袋	19団体	約2,100人
11月	食品6種類 (レトルトカレー、ラーメン、シーチキン缶詰、シリアルコーン、焼き肉のたれ、だしの素)	6,090点	21団体	約2,200人
12月	クリスマス菓子ブーツ	1,000点	21団体	こども1,000人
合計		7,330点	61団体	約5,300人



▲10月臨時の食料支援活動



▲12月9日フードバンク活動交流会

移動子ども食堂
くるくるごはん
804へのお米の提供

社きらめきグループホームが開所しました

2025年12月8日、福井市社地区・福井市みどり図書館近くに、福井県内15拠点目となる「社きらめきグループホーム（認知症対応型共同生活介護）」がオープンしました。役員・職員の他、福井市や建築関係者30名が出席し、開所式と内覧会を開催しました。

『あなたらしいいつまでも』を理念に、入居施設だからこそできるご自身の好きなこと、会いたい人、行きたい場所へ。仲間と happy に暮らすことができ、最期まで自分らしく生活できるよう、日々ご利用者の想いを大切にしていきます。一人ひとりが自分の人生を「人」として生きる。そんな当たり前の暮らしをサポートしていきます。2ユニット、定員18名の居室に加えて、利用者や家族、地域の方が交流できる交流ルームも備えています。お近くにお寄りの際はお気軽においでください。



SNS（インスタグラム）にて活動の様子やイベント等、随時、更新中



▲開所式（檜原理事長あいさつ）



▲外観

収集ボランティアにご協力ありがとうございました

ボランティア月間で収集された使用済み切手・ベルマーク・外国コインは、収集団体などを通して、国内外の社会問題の啓発活動や社会福祉に関する活動、医療が十分でない海外地域への協力活動に役立てられています。下記はその一例です。



収集物	量
使用済み切手	8,380g
ベルマーク	1,000g
書き損じ葉書	178枚
外国コイン	国：15カ国 コイン枚数：470g 他 未使用切手など

①NPO法人 誕生日ありがとう運動本部
<http://tanjyobiariga10.web.fc2.com/>

②公益財団法人 ジョイセフ(家族計画国際協力財)
<http://www.joicfp.or.jp/>

③公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)
<http://www.jocs.or.jp>

④ユニセフ
<https://www.unicef.or.jp>



ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会
〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2026年3月6日 No.150

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索

福井県生協連合会 50th Anniversary Ceremony 創立50周年記念式典を開催しました

2025年11月7日(金)、福井県織協ビル10階にて、福井県生協連合会創立50周年を記念する式典を開催しました。県内外からの来賓および会員生協の役職員、合わせて68名が出席されました。檜原弘樹会長理事はあいさつの中で、50年の活動を通してどんな時代も人と人とのつながりと支え合いによりよい暮らしと地域社会を築くことが協同組合の原点であると確信しており、50周年を新たな出発点として一層協同の力を発揮していくことを誓いました。また、来賓を代表して福井県副知事の鷲頭美央氏と、日本生活協同組合連合会副会長の嶋田裕之氏より、福井県生協連合会の50年の歩みへの敬意と、これからの活動への期待を込めた祝辞が述べられました。式典後には、公益財団法人 生協総合研究所 代表理事・専務理事の和田寿昭氏を招き、「歴史的な視点から国際協同組合年を考える」と題し、協同組合が持つ社会的可能性、地域における生協の役割、そしてこれからの挑戦について示唆に富む記念講演が行われました。ご出席いただきました皆様に心より感謝申し上げますとともに、福井県生協連合会はこの50周年を機に、今後も地域社会の発展と組合員の皆様のより豊かな暮らしの実現に向けて、役職員一同、邁進してまいります。

福井県内大学生へ 食料品を寄贈しました!

長引く物価高騰が続く中、県内の大学生を支援するため、福井県生協連合会と福井県民生協が共同で、食料品のプレゼントを実施しました。対象となったのは、福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学に通う計500名の学生です。ごはんパック、レトルトカレー、カップ麺、さば味噌煮など、すぐに食べられる計8品の食品セットを贈りました。12月15日から17日の間に各大学を訪問し、初日には福井大学と福井工業大学で贈呈式を行いました。また、同日に福井県立大学、翌16日に仁愛女子短期大学、17日には仁愛大学へそれぞれ食品をお届けしました。コロナ禍にあった2021年にスタートした年末の県内大学生への食料支援は、今年で5回目を迎えます。受け取った学生さんからは、アンケートを通じて以下のような嬉しい感謝の声が寄せられました。

- 物価高で困っていたので、とてもありがたいです
- 今回の取り組みに感謝し、この思いを大切にしたいです
- 研究で遅くなった時、すぐ食べられるものばかりで一人暮らしには助かります
- 日々の生活費の負担がある中、食品のプレゼントは非常にありがたいです
- COOP商品が大好きなので嬉しいです

物価高に負けず、学生の皆さんが元気に学業や学生生活を送るための一助となれば幸いです。

会員生協の活動とボランティア取り組みの紹介

福井県生協連合会では、会員生協(組織または役職員・組合員)が行っているボランティア活動に対して助成金をお渡しし、活動を応援しています



年末食料無料支援と健康チェックを行いました

第22回食料無料支援を12/26に実施しました。コロナ禍少しでも助けに…と開始、季節毎に開催し6年目です。年末にはつきたて餅もお渡しし、医療生協らしく2022年より健康チェックも実施、組合員12名、医療介護の職員14名に加え、看護学生と看護師を目指す高校生各1名も緊張しながら健康チェックに参加しました。

福井市フードドライブ事業の他、2025年度からは県民生協さんの通年回収が開始されてハーツ学園さんからより多くの回収品提供があり、物価高騰が続く中、提供して下さる方々と関係各所に心から感謝します。来場者66名、お届け39名分、受け取った方々はみな感謝しておられ、寒い雪混じりの雨でしたがスタッフの心は温まりました。



▲健康チェックに並ぶ来場者



▲終了後のスタッフ記念撮影



▲毎回好評の断捨離による古着



「福井県しあわせ基金」に寄付

学校生協の『お菓子やさん』9月号チラシの供給高3%を、令和7年10月6日「福井県しあわせ基金」へ寄付しました。

「2025組合員感謝祭」を開催

令和7年10月18日(土)、「2025組合員感謝祭」を福井県教育センターにて、1日開催で行いました。

当日は、約520名の組合員さま・ご家族さまにご来場いただき、ハロウィンイベント・ビンゴゲーム・大抽選会等を盛大に行いました。



▲多くの来場者でにぎわう「2025組合員感謝祭」▲



「福井ブローウィングス」試合会場で防災・減災イベントを開催しました

2026年2月14日(土)・15日(日)、セーレンドリームアリーナでの「福井ブローウィングス」公式戦に合わせ、会場内で「防災・減災イベント」を開催しました。

当日は、試合会場というワクワクの空間で、スタンプラリーを楽しみながら非常口や消火器、AEDの設置場所を意識するトレーニングや、防災で大事な「そなえる」「うごける」「たすける」という行動をバスケットボールの動きで学ぶ「防災バスケ」を開催し、多くの方に、楽しみながら防災・減災に触れていただくことができました。また、バレンタインデーにちなんで来場者全員にフォーチュンクッキーをプレゼントし、試合観戦を楽しんでいただきました。



「すがはま生協まつり」盛大に開催

11月9日(日)に、恒例の「すがはま生協まつり」を開催しました。「敦賀祭り」にも匹敵するほどの気持ちをもって臨みました。写真は、セイコ蟹と焼きサバを求めて、遠いところは県外からも来て頂いた当日の様子です。このような盛況ぶりを見て、諸先輩から受け継がれてきた「地区全体で盛り上げよう」という組合員さんの気持ちが、地域内外に伝わっているのだと確信しました。



今年も「マスコット雪だるま」が、みんなを出迎えました

令和8年の大寒に入るやいなや、日本国中にドカ雪が猛威をふるいました。菅浜生協地区においても、嶺北ほどではないものの例年より多めの降雪があり、早朝より除雪車が稼働していました。今年も菅浜生協店舗前の組合員さんが、持ち前の器用さを活かして、人気のキャラクターの雪だるまを製作して下さいました。この取り組みは5年継続しており、地域内外から、写真撮影に来られる方が増えてきています。「みんなで育てる菅浜生協」をモットーに、コミュニティの場として、高齢者の皆さんの情報収集の場として、地域のつながりを強めていきたいと考えています。

